

## ～平成30年度岩手県森林・林業政策連絡協議会（後期）を開催～

平成30年11月30日（金）、岩手県森林・林業政策連絡協議会（後期）が開催され、岩手県、森林総合研究所東北支所、林木育種センター東北育種場、森林整備センター盛岡水源林整備事務所、岩手県内の各森林管理署等から25名が出席しました。

本協議会は、平成25年度から国有林野事業が一般会計に移行し、国有林は民有林施策との一体的な推進を図りつつ管理経営していくこととなり、国有林と民有林のそれぞれの具体的な施策、林業技術の向上や民国連携の取組等について、より連携・協調が図られ、また実効ある施策の展開が図られることを目的に毎年2回（上半期は盛岡市内で会議のみ実施・下半期は5つの森林計画区持ち回りで現地視察を実施）開催しています。

今年度は北上川上流流域管内の当署と盛岡広域振興局林務部で実施内容等について企画を担当し、①岩手県林業技術センターの取組、②ヒバ人工林における天然更新施業、③松くい虫被害対策（樹種転換）の取組を視察することとしました。

まず、矢巾町に所在する県林業技術センターでは、始めに赤澤所長からセンターの概要について説明があり、その後林業技術センターの担当者から「いわて林業アカデミーの取組状況」と「抵抗性アカマツ品種の開発状況」について説明がありました。

いわて林業アカデミーでは将来的に林業事業体経営の中核となりうる現場技術者を養成することを目的に昨年度開校し、第1期生15名全員が岩手県内の林業事業体等で活躍しています。また、今年度の第2期生18名も現在、熱心に講義や実習等に取り組んでおり、林業技術者として必要な9種類の資格も既に取得し、残りの研修期間でさらに技術の習得等が期待されるところです。

また、抵抗性アカマツ品種の開発については平成5年度から研究が進められており、抵抗性は徐々に向上し年間3.5kgの種子を供給しているものの、防潮林復旧事業用として活用されている程度で供給実績が非常に少ない。うえ、アカマツ造林自体が激減していることもあり、今後次世代のアカマツ資源再生を考えた際に天然更新箇所に補植的に活用するなど、積極的に活用していくことが重要となっています。



赤澤所長の説明



いわて林業アカデミーの説明



抵抗性アカマツ品種の説明

午後からは滝沢市平蔵沢の影添国有林に移動し、昨年度東北森林管理局で開催された森林・林業技術交流発表会で当署が発表した「平蔵沢ヒバ人工林における天然更新による施業方法」について、現地に於いて更新状況等について意見交換を行いました。

樹齢約180年生の現地では、平成23年に雪害による倒木で林冠が開放され、照度が確保されたことにより伏条更新によるヒバの稚樹が生育している状況等を確認しました。

今後は、スギやカラマツ人工林よりも高収入も期待できる人工林として、蓄積を維持しながら収穫していくことも検討しています。



ヒバ人工林の概要説明



ヒバ稚樹の生育状況を確認

その後、雫石町の七ツ森町有林で実施している松くい虫被害対策としてのアカマツの樹種転換と伐倒駆除事業箇所の視察を行いました。

現地は、約60haのエリアで被害を受けた森林を対象として前生樹の伐倒・除去を行う特殊地拵、マツ以外のイタヤカエデ等の広葉樹をモザイク状に混植を実施している箇所で、七ツ森町有林全体が「イーハトーブの風景地」として国の名勝地に指定されていることもあり、景観への配慮と松くい虫被害対策を両立した事業となっています。



樹種転換事業箇所の概要説明



樹種転換事業箇所の全景

最後に、盛岡広域振興局林務部の眞島林業振興課長が、「本日の現地視察等で、松くい虫対策など岩手県で抱えている問題点などについて理解を深めることができた。抵抗性アカマツ苗活用などの課題もあり、民有林と国有林がさらに連携して取組を進めていくことが重要」と総括しました。

なお、来年度は久慈閉伊川森林計画区管内で開催する予定です。